

愛媛大学医学部附属病院を受診している患者さんへ

研究に対するご協力をお願い

愛媛大学医学部附属病院では、医学・医療の発展のために様々な研究を行っています。この研究は、愛媛大学医学部附属病院の臨床研究倫理審査委員会での審査・承認後、当院で病院長の許可を受けて実施しております。

今回の研究では、患者さんのカルテの記録を使用します。

研究の内容を詳しく知りたい方や、カルテの情報を利用してほしくない方は、以下のお問い合わせ先までご連絡下さい。ただし、研究結果が出た後など研究の対象から削除できない場合もありますのでご了承ください。

※試料・情報の利用を拒否された場合でも、あなたが不利益を受けることはありません。

研究課題名	姿勢変化にともなうペースメーカーリードの変形や移動を予測する人工知能モデルの開発
研究機関名	愛媛大学医学部附属病院
試料・情報の提供を行う研究機関の長	愛媛大学医学部附属病院 病院長 (試料・情報の提供元の管理責任者)
研究責任者 (個人情報管理者)	(診療科名) (職名) (氏名) 循環器・呼吸器・腎臓高血圧内科学講座 教授 山口 修
研究期間	研究機関の長の許可日 ～ 2031年12月31日
対象となる方	2009年1月から2030年12月までに愛媛大学医学部附属病院でペースメーカー移植術を受けた全ての患者さん
利用する試料・情報等	(利用するカルテ情報) 性別、年齢、手術時期、合併症、既往歴、身体所見、血液検査データ、画像検査データ、治療状況 等
研究の概要 (目的・方法)	高齢化に伴ってペースメーカー手術を受ける患者様が増えています。ペースメーカー手術は寝た状態で行うため、手術が終わって体を起こすと重力の影響でペースメーカー本体が足元に下がり、心臓に入れたリード線が引っ張られてしまいます。この程度がひどい場合、リード線が抜け落ちてしまつて再手術が必要になります。しかしながら、手術の際にどの程度たわみをつければ良いのかは科学的に検証されていません。そこでこの研究では、2009年から2030年までに当院でペースメーカー植え込み術を行った患者様を対象に、植え込み直後に寝た状態で撮影した胸部単純X線写真と、植え込み翌日以降に立った状態で撮影したX線写真を用いて、前後のペースメーカーリードの変化を予測する人工知能モデルを作成します。また、ペースメーカー植え込み後の合併症とX線写真との関係もデータ分析により明らかにします。

個人情報の保護 について	収集した情報は名前、住所など患者さんを直接特定できる情報を削除いたします。そのため個人を特定できるような情報が外に漏れることはありません。また、研究結果は学術雑誌や学会等で発表される予定ですが、発表内容に個人を特定できる情報は一切含まれません。 なお、研究結果は学術雑誌や学会等で発表される予定ですが、発表内容に個人を特定できる情報は一切含まれません。 【情報管理責任者】心不全治療学講座 教授 池田 俊太郎
お問い合わせ先	愛媛大学医学部附属病院 循環器内科 檜垣 彰典 791-0295 愛媛県東温市志津川 454 Tel: 089-960-5303